

令和 3 年度日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック第 2 回議員総会
議事録 (案)

開催日時	令和 3 (2021) 年 12 月 25 日 (土) 17:00~18:00
開催場所	ZOOM 会議
司会	高柳亮 先生
議長	山田隆司 先生
書記	関東甲信越ブロック支部事務局 (東京大学大学院医学系研究科 医学教育センター/医学教育国際協力学部門内)
テーマ	2021 年度第 2 回議員総会
内 容	
<p>1. 開会</p> <p>司会の高柳亮先生より、本日時点の関東甲信越ブロック支部学会の投票権を持つ参加者 322 名 (学会代議員数 302 名、理事数 17 名、役員 3 名) の内、直接の出席者 42 名、提出された委任状が 95 通であったことが報告され、関東甲信越ブロック支部規約「第 24 条 議員総会定足数」の開催の条件 (代議員総数の 3 分の 1 以上) を満たしており、開会が宣言された。</p> <p>2. 支部長挨拶</p> <p>大西ブロック支部長より、以下の挨拶がなされた。</p> <p>「現在の学会活動は、コロナ禍の中にあつて様々な会合が Web 開催を中心にそれなりに進んでいる状況。年次総会は 2 年連続 Web 開催であったが、来年 6 月の年次総会は横浜にてハイブリッドで開催の予定と聞いている。学会として専門医制度について総合診療が新たな専門医を生み出す形となり、我々の学会の家庭医療専門医も来夏に初めて誕生する状況にある。専門医機構と学会の協調が難しい面もあるが、総合診療医を目指す若手医師にとっては家庭医療は新しいあるべき姿を追求し良い方向に進んでいる。この点、今後の重要な医師像を見出していった若手医師も多いと感じている。学会の総合診療専門研修ハンドブック第 3 版も先日刊行された。学会としては順調に活動が行われている。今後は全国の学会のみならず、各地域、都道府県の住民、多職種などの繋がりも増やしていくことが必要になってくる。学会本体としてもブロック支部や都道府県支部とのつながりを深めていく方向である」</p> <p>3. 議長選出</p> <p>東京都台東病院の山田隆司先生が、立候補により議長に選出された。</p> <p>4. 協議事項</p> <p>議題 1 : ブロック支部ホームページ (HP) の立ち上げ (資料 1)</p> <p>大西ブロック支部長より資料 1 に基づいて、関東甲信越ブロック支部内の情報を一元化し活動内容・活動状況をより見やすくするブロック支部 HP 立ち上げについて提案がなされた。</p>	

補足：ブロック支部 HP 立上げ後の HP に関する質問・意見は、大西支部長宛てに行う。

質問：特になし

(採決：可決)

議題 2：直接補助活動の予算措置（資料 2）

大西ブロック支部長より資料 2 に基づいて、過去 4 年間のブロック支部会計の収入、支出に関する状況報告が行われた。コロナ禍による会合の Web 開催などにより繰越金、内部留保が 2020 年度に 200 万円程増加していることから 2019 年まで行われ 2020～2021 年度は停止していたブロック直接補助活動費の再開が提案された。

質問：特になし

(採決：可決)

議題 3：ブロック支部と各都県支部との関係（資料 3）

大西支部長より、資料 3 に基づいてブロック支部と各都県支部関係の現状報告がなされ、都県支部活動の実態と学会との関係、会員の帰属意識など課題が指摘された。今後の活動の活発化ための意見が求められた。

コメント：

(竹村東京都支部長) 都道府県支部とブロック支部の関係において、必ずしも学会が強くガバナンスを効かせる必要はないと思料。活動目的がその地域のプライマリ・ケアの発展に繋がるのであれば、活動するのに必ず会員でなければならないということはない。学会の活動目的から外れないようガバナンスを効かせつつ、ゆるやかな規制で良いと思う。

(議長) 地域での活動の好事例が都道府県から出てくると参考になる。

(寺門栃木県支部長) 栃木県は、学会員以外のメンバーも参加している栃木プライマリ研究会が活動してきたが、学会からの補助金の使用問題、県内にいる 200 名ほどの学会員勧誘を念頭に置き、昨年、JPCA 栃木県支部を立上げ研究会とはっきり分けた。現在、研究会は支部の下部組織として活動している。しかしながら、県支部メンバーは現在 40 人程度で学会員に働きかけたくとも名簿を県支部レベルでは持てないため勧誘が難しい。学会本部から名簿を共有してもらい、都県支部から学会員に直接働きかけていのようにして欲しい。

(大西) 栃木県のように学会員だけで県支部が構成されている場合は、会員名簿を共有しても問題ないと考えており、この場で了解をとっておきたい。

(林千葉県支部長) 千葉県は、旧プライマリ学会から活動している千葉県プライマリ研究会があったが、統合後の JPCA 会員が少なかったため、学会員を中心とした県支部をプライマリ研究会の一部門として置いた。独立性を尊重しつつ連携を行い、今年 11 月 14 日に合同

の例会を行った。しかしながら県支部は、県内の学会員の認知度が低く、県内の学会員は400数十名以上いるものの参加費を支払って参加している県支部会員は51名のみ。学会の県支部としてサポートして欲しい。

(寺門) 支部運営の会費集めや会計作業は大変になってくるため、現在連絡はオンラインで行うなど事務費を削減し、会費を集めれば都県補助金だけで運営することにした。

(議長) 2件の事例を参考にされつつ、学会として独立した支部会を意識して組織し、他を排除するのではなく、明確に線引きし都道府県の医師会などと連携ができていくとよい。

議題4：その他

特になし

5. 報告事項

① 令和3年度若手医師向け事業および新専攻医オリエンテーション(資料4)

JPCA 専門研修支援委員会委員長の高柳先生より資料4に基づいて、報告がなされた。同関東甲信越ブロックの委員は4名(湯沢町保健医療センター・井上陽介先生、千葉大総合診療科・鋪野紀好先生、昭和大学総合診療科・原田卓先生、勝田病院・宮沢麻子先生)。一昨年より、新専攻医オリエンテーションのほか、若手医師・専攻医に対する教育企画を行っており今年度は4回実施。日曜の開催が多いが各50名前後の参加者を得ている。

補足コメント：

(原田先生) 初年度としてはまずまずの成果。来年度に向けて可能であれば、継続支援企画のオンライン・レクチャーで学会のzoomアカウントなどが使用できればありがたい。現状、有志の上限100人のアカウントを使用しているが、初回の申込から100人を超えたためある程度絞って運営している状況。専攻医の他、指導医層にもニーズがあるようなので300人以上のウェビナー対応のアカウントが使用可能であれば、より充実した運営ができると思う。

(鋪野先生)：令和4年度のオリエンテーション企画を4月に計画しているので、今後入ってくる新専攻医を対象にお声掛けいただけると助かる。

質問：なし

② 令和3年度ブロック支部地方会報告(資料5)

長野県支部長鈴木先生より次の報告がなされた。

コロナ禍のため1年延期となり、当初ハイブリッドで想定していたが最終的にオンラインで開催した。開催は1日半で長野県支部内でいろいろなプログラムを考え、充実したものになった。有料参加者380名、学生などの無料参加者60名がで、予想より参加人数が多く盛況

に開催された。単位認定の方もプライマリケア認定医、薬剤師認定、指導医認定、医師会の認定、Off the Job 認定などお願いできたので、参加の動機となったと思う。

予算は、約 470 万円。うち 70 万円は長野支部及び篠ノ井総合病院からの借入で、実際は 300 万円強。ハイブリッドにした場合、予算が 2 倍近くになるためコロナ禍の状況によるが、今後ハイブリッドにするかどうか次の地方会の課題となると思う。

6. 令和 4 年度ブロック支部地方会進捗

東京都支部長竹村先生より、次の報告がなされた。

東京都は3つのグループ（大学、病院、診療所）に分かれているが、来年の11月のコロナ禍の状況が分からないこと、都内の会場費が高額ということでオンライン開催をする予定である。できるだけ参加者を増やすため著名な方の講演と単位認定のため家庭医療専門医の先生の発表も入れることを考えている。来年より、自身が東京都の病院に異動するが実施可能。詳細は分かり次第伝える。

7. 各都県支部からの報告

埼玉県支部長（石田先生）： 11月19日に第14回プライマリ・ケア連合研究会を完全Webで行った。2時間半の中で教育講演3演題、特別講演としてコロナ禍に1年半直面し続けることで得られた経験ということで自治医科大学、埼玉医療センターの活動を共有した。完全Webのため全国からの参加者がかなり多くあった。またSPARTという「埼玉のプライマリ・ケアをアートする」という活動を行っているが、若手の家庭医療の指導医が専攻医たちと教育に携わるということでネットワーク作りを行っている。

新潟県（井口）： 8月29日にあがの市民病院の藤森先生を会長として第14回新潟県プライマリ研究会をハイブリッドで開催した。教育講演1演題と特別講演を行った。教育講演は、私の大学で厚労省の総合的な診療能力を持つ医師養成のプロプログラム予算を得、寄付講座ができたのでそちらの担当教授から教育演題をお願いした。特別講演では、秋田・横手市大森病院の小野先生に多職種連携に関する講演頂いた。講演時間2時間で会場11名、オンライン16名の参加。2年ぶりに会を開催したということで盛り上がった。

8. その他

寺門先生より、長野県の地方会は非常に内容の濃い、立派な地方会であったとの言及があり、長野支部鈴木先生よりホームページはまだ閲覧可能なので、抄録など興味のある方はご欄くださいとのコメントがなされた。

以上を持って、令和 3 年度第 2 回の議員総会を終了した。

